



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

新年あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願い致します



【感染症だより】

～年末の感染症流行状況について～

今シーズンは季節性インフルエンザが全国的にほとんど検出されていません。年末に全国で感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナが増加しました。しかし、感染性胃腸炎が多かったと言っても過去5年間の平均よりも低い水準となっています。

～新型コロナウイルス・ワクチンについて～

すでにNHK ニュースでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、北里大学の研究グループがオミクロン株に対するワクチン効果について研究結果を発表しました。国内でワクチンを2回接種した人の抗体の効果をデルタ株とオミクロン株と比較したところ、デルタ株に対する中和抗体の値よりも平均で約70-80%低下している事が判りました。コロナウイルスは概ね2週間に1回変異していますから、ワクチン効果が下がることは予測の範囲内と言えるでしょう。とはいえ、WHO（世界保健機関）でオミクロン株はこれまでの変異株より軽症の証拠が多いと発表されています。さらに、南アフリカの国立伝染病研究所から、オミクロン株は他の株よりも入院のリスクが80%低い、英国でもオミクロン株はデルタ株よりも入院のリスクが低いと発表されています。従来同様、流行の波が収まる毎に弱毒化しているようです。つまり、重症度が下がっているということで、不安要素が減ったということですね。

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省から12月24日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係は不明ですが累計1431人の方が死亡（10代の方が5名）、重篤副反応は6165名（内、10代が341人）でした。若い人に多い心筋炎・心膜炎関連の副反応はファイザー製、モデルナ製を合わせると633例が報告されています。新型コロナウィルスに感染してもほぼ重篤化しない小児では、ワクチン接種について慎重に判断したいところです。これらの副反応報告は厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

表：12月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

文責：清水マリ子

	感染症	患者数
1	胃腸炎(ノド、アノ1)	116
2	溶連菌	113
3	手足口病	18
4	ヘルパンギーナ	12
5	突発性発疹	8
6	伝染性膿痂疹(とびひ)	3
7	おたふくかぜ	2
8	RSウイルス	1
8	水ぼうそう	1

※

コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。

あんず通信バックパ-は
クリニックホームページからご覧になれます。
<https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～インフルエンザ感染について～

例年であれば今頃はインフルエンザが猛威をふるっているところですが、今シーズンも昨シーズン同様に季節性インフルエンザが全国的にほとんど検出されていません。昨年同様、この現象はコロナウイルスによるウイルス干渉とみられます。ウイルス干渉とは、あるウイルスの流行期間中は他のウイルスの流行が抑制される現象です。小児科で例えて言えば、インフルエンザ流行中はRSウイルスの流行が抑制されます。インフルエンザの流行が抑制されることは、インフルエンザによる小児の脳炎など重症化が抑制されることにつながり、朗報であると言えます。

～新型コロナウイルス・オミクロン株について～

東京都では1月21日から2月13日まで予定されていた蔓延防止等重点措置が3月6日まで延長されました。実際の感染状況データを見てみますと、今回の第6波では1月9日に実行再生産数のピークが認められた後はずっと低下しています。東京都のPCR陽性者数も1月末にピークアウトし、収束は間もなくとみられます。すでに第6波を乗り切った沖縄の状況を振り返ってみますと、オミクロン株による死亡率は0.006%でインフルエンザの致死率0.1%よりもだいぶ低いことが解りました。また、大阪のデータも同様に致死率0.02%と下がっており、死亡率・重症化から見て第5波のデルタ株よりもかなり弱毒化していることが判明しました。この状況は世界各国で同様に認められており、コロナウイルスの弱毒化に伴って欧米の国々では次々とコロナ規制解除やマスク解除が行われています。

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省は5～11歳の子どもに対する新型コロナワクチン接種を正式に承認しました。3月以降に始まる見込みですが、その前にワクチン接種副反応について考えてみましょう。まず、10代以下で新型コロナウイルス感染による重症化は13名、死亡は4名です（うち3名は基礎疾患あり）。一方、10代以下のコロナワクチンによる重症副反応は387名、死亡が5名です。新型コロナウイルスに感染してもほぼ重篤化しない小児では、ワクチン接種について慎重に判断したいところです。

厚労省から1月21日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係は不明ですが累計1444人の方が死亡、重篤副反応は6370名でした。これらの副反応報告は厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

文責：清水マリ子

表：1月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(内11)	190
2	溶連菌	105
3	新型コロナ	19
4	突発性発疹	3
5	アデノウイルス咽頭炎	2

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。

あんず通信バックパ-は
クリニックホ-ムページからご覧になれ
ます。 <https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど直しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～胃腸炎について～

胃腸炎は毎冬流行するもので、今シーズンも相変わらず流行しています。胃腸炎といっても、罹る人の状態によって軽くも重くもなります。ちょっと吐き気だけで終わる人もいれば、嘔吐や下痢を繰り返して脱水症を起こしてしまう人、下痢のみで終わる人もいます。特に乳児では、嘔吐と下痢によって脱水症を起こしてしまうことが多いので注意が必要です。脱水症にならないよう、上手に水分補給を行うことが大切です。病気の時は、栄養摂取よりも脱水にならないようにすることが優先されます。あんずだより特別号バックナンバーで「吐いた時」「下痢の時」の対応を特集しておりますので、ご参照ください。

～新型コロナウイルス・オミクロン株について～

日本国政府は3月6日までとされていた蔓延防止等重点措置を2～3週間延長することを検討しています。オミクロン株のBA.2に関しては、既にヨーロッパで流行していますが、イギリスではBA.1よりも入院リスクは低いと報告されています。感染力が強いと言われていますが、感染力が強いからといって重症化している訳ではありません。無症状や軽症であればあるほど、つまり弱毒化すればするほどウイルスの感染力は強くなっていく傾向にあります。

～新型コロナワクチン副反応について～

3月になって5～11歳の子どもに対する新型コロナワクチン接種が始まりましたが、これは努力義務ではありません。安全性やオミクロン株に対する有効性については未だ不明です。新型コロナウィルスに感染してもほぼ重篤化しない小児では、ワクチン接種について慎重に判断したいところです。

厚労省から2月18日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係は不明ですが累計1474人（うち10代が6人）の方が死亡、重篤副反応は6454人（うち10代が398人）でした。これらの副反応報告は厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

文責：清水マリ子

表：2月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(内/外2)	79
2	溶連菌	52
3	新型コロナ	26
4	水ぼうそう	1
4	突発性発疹	1
4	伝染性膿痂疹(とびひ)	1

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。



～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～新型コロナウイルス・オミクロン株について～

東京都では3月21日で蔓延防止等重点措置が終了し、3月22日から4月24日までリバウンド警戒期間となりました。外出自粛要請はありませんが、混雑している場所や時間を避けて行動するよう呼びかけています。オミクロン株が流行してから、PCR陽性者数が増えているにも関わらず死亡率はかなり低下していることが統計上わかっています。このため、一部の政治家や医師から「指定感染症」の分類を「五類」に変更すべきだという意見が出ています。「感染症の五類」というのは、季節性インフルエンザと同等くらいというレベルです。重症化や死亡が認められるのは、持病のある高齢者や免疫抑制患者に限定されてきており、オミクロン株はかなり弱毒化しているとみられています。

～新型コロナワクチンについて～

3月から5～11歳の子どもに対する新型コロナワクチン接種が始まりました。現在接種されているワクチンは、武漢型の新型コロナウイルスを標的に造られており、変異の進んだオミクロン株に対する効果はかなり低いといわれています。オミクロン株に対する有効性については、ニューヨーク州の5～11歳小児のデータで、発症予防効果は12%と発表されています。これは、接種をしても発病を防ぐ効果がかなり低いということです。また、米国の5～11歳に対するmRNAワクチンによる副反応報告によると、2回接種後に日常生活に支障が出たり、登校できなくなる子供が約18%認められています。

新型コロナワクチンは、治験が最終相まで行われていない緊急使用であるために、発がん毒性や遺伝毒性については不明です。数か月後や数年後、あるいは次世代、次々世代までの影響が未知な状況です。もともと感染してもほとんど重篤化しない小児では、ワクチン接種について慎重に判断したいところです。

厚労省から4月13日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係は不明ですが累計1667人（前回から96人増）の方が死亡されていました。このうち、3回目接種後に亡くなられた方は163名でした。これらの副反応報告は厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

表：3月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

文責：清水マリ子

	感染症	患者数
1	胃腸炎	88
2	溶連菌	60
3	新型コロナ	30
4	咽頭アデノウイルス	1
4	ヘルパンギーナ	1
4	突発性発疹	1
4	伝染性膿痂疹(とびひ)	1

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。

あんず通信バックパ-はクリニックホームページからご覧になれます。<https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお詫び～
職員の新型コロナ感染発生に伴い
4月8～15日の間休室となりました
ご迷惑をおかけし誠に申し訳ございません
18日より再開致します

～あんずからのお知らせとお願い～
★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★**病児保育室あんずでの新型コロナ対策**★
病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～新型コロナウイルスについて～

東京都では4月24日までの予定だったリバウンド警戒期間が5月22日まで延長になりました。4月15日以降PCR陽性者数の実行再生産数が1を切って減少傾向が続いていましたが、ゴールデンウィーク明けはやや増加傾向です。ゴールデンウィークの疲れが出て風邪をひいた方もいらっしゃると思います。風邪は適切に対応すれば3～4日で改善しますので、消化の良い食事と睡眠時間をしっかりとって身体を休めましょう。

～感染性胃腸炎について～

ここの所、胃腸炎がトップを維持しています。嘔吐、下痢、食欲不振などがみられ、お腹のかげ（Stomach Flu）とも言われます。ほとんどがウイルス性で、何十種類もあります。この中で症状が比較的強いものがノロウイルスやロタウイルス、アデノウイルスです。これらのウイルスは容易に伝染するため、しばしば家族全員に移ります。乳幼児では嘔吐や下痢が頻繁だと脱水症状を起こすことがありますので、経口補水液などをこまめに与えましょう。嘔吐が止まらない、ぐったりする、顔色が悪い、ぼーっとしている、目がうつろなどの症状がある時は、医療機関を受診しましょう。

表1：4月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(アノ2含む)	85
2	溶連菌	81
3	新型コロナウイルス	12
4	咽頭アデノウイルス	5
5	突発性発疹	4
6	伝染性膿痂疹(とびひ)	3
7	おたふくかぜ	1

あんず通信バックパ-は
クリニックホームページからご覧になれます。
<https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていました。**しみず小児科・内科クリニック**のホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

～新型コロナワクチン副反応について～

実際、新型コロナワクチンの副作用はほかのワクチンと比べて多いのでしょうか、少ないのでしょうか。表2に代表的なワクチンと比較をしてみました。このデータは厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

2013年、子宮頸がんワクチンで重篤な副反応が出た際、子宮頸がんワクチンによって亡くなった方はいませんでしたが積極的勧奨が中止となり、ほとんどの接種対象者が接種を見送る事態になりました。一方、新型コロナワクチンでは因果関係は不明ですが、重篤副反応が6933名、1667名が死亡と報告されています。

表2：その他のワクチンの副反応報告状況（医療機関報告）
厚労省令和4年発表（平成25年4月1～令和3年12月31日報告分）

ワクチンの種類	接種延べ人数	副反応	重篤な副反応	死亡
MRワクチン	22,329,595	129 (0.001%)	228 (0.001%)	0
四種混合ワクチン	32,566,370	786 (0.002%)	378 (0.001%)	0
子宮頸がんワクチン	2,716,560 (販売開始から累計)	604 (0.022%)	218 (0.0080%)	0
季節性インフルエンザワクチン	6550万人 (R2.10～R3.9)	318 (0.00049%)	104 (0.00016%)	3 (0.0000046%)
日本脳炎ワクチン	37,446,752	638 (0.002%)	268 (0.0007%)	0
新型コロナワクチン	2億4768万110 (R3.2～R4.4)	32,688 (0.00013%)	6933 (0.00028%)	1667 (0.0000067%)

**病児保育室あんずでの
★新型コロナ対策★**

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

文責：清水マリ子





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～新型コロナウイルスについて～

東京都ではリバウンド警戒期間が5月22日で終了となり、23日以降は基本的な感染防止対策となりました。感染状況は5月19日以降PCR陽性者数の実行再生産数は1を切り、第6波はだいぶ落ち着いています。

さて、新型コロナウイルス発生から早2年半が過ぎてデータがだいぶ集まりました。新型コロナウイルスとはどんなものだったのか、名古屋大学名誉教授の小島勢二先生が詳しく解説してくださっていますので一部紹介します。

まず、他のウイルスと比べてみると、我が国における10歳未満の小児重症ウイルス感染症の年間発症数は、季節性インフルエンザやRSウイルスのほうが何倍も重症度が高いことがわかりました（表A）。米国と比較しても、日本では20歳未満の死亡者数は圧倒的に少ないことがわかりました（表B）。新型コロナウイルスは、インフルエンザやRSウイルスと比較して重症化が少ないことがわかりました。

表A：日本国内の10歳未満小児の重症ウイルス感染症年間発症数

	インフル	RSウイルス	新型コロナ
重症	100～150	7000～8000	10未満
死亡	30～50	20～30	3未満

表B：20歳未満の新型コロナ感染による日米死亡者数の比較

	小児人口	コロナ感染累積死亡者数	100万人あたりの死亡者数
日本	2309万人	10人	0.43人
米国	7527万人	1,118人	148.5人

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省から6月10日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係不明ですが累計1743人（前回から32人増）死亡されていました。このうち、3回目接種後に亡くなられた方は225人でした。また、重篤な副反応は7275人で、このうち5～11歳は12人でした。新型コロナウイルス感染によって重症化することが少ない小児では、ワクチンの副反応による重症化数と比較すると、ほとんど差がないということがわかります。このデータは厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

文責：清水マリ子

表1：5月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(77ノ16含む)	131
2	溶連菌	76
3	突発性発疹	7
4	新型コロナウイルス	6
5	咽頭アデノウイルス	5
6	水ぼうそう	3
6	伝染性膿痂疹(とびひ)	3

あんず通信バックパ-は
クリニックホームページからご覧になれ
ます。 <https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～

- ★**空き状況**を Web で確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
- ★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～RSウイルス、夏風邪について～

昨年の春から夏にかけてRSウイルスが大流行しましたが、今年も東京都内でも6月末からジワジワと増加してきています。右の表は、東京都の定点把握数です。これは、東京都健康安全研究センターが毎週発行しているもので、どなたでもWeb上で参照することが出来ます。これを見ると、夏風邪の手足口病と、ヘルパンギーナも増加傾向であることがわかります。RSウイルスに関しては、乳児では気管支炎や肺炎で入院になることがありますので、顔色が悪いときや、哺乳量が減っているとき、咳き込んで吐いてしまう時は医療機関を受診しましょう。

定点把握対象疾患 報告数 2022年26週

定点種別	対象疾患	2022年				報告医療機関数	定点医療機関数
		23週	24週	25週	26週		
小児科	RSウイルス感染症	45	69	121	182	260	264
		0.17	0.27	0.47	0.70		
	咽頭結膜熱	100	84	82	88		
		0.39	0.33	0.32	0.34		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	48	37	53		
		0.19	0.19	0.14	0.20		
	感染性胃腸炎	1,791	1,918	1,710	1,441		
		6.94	7.49	6.60	5.54		
	水痘	18	16	22	33		
		0.07	0.06	0.08	0.13		
	手足口病	66	94	184	315		
		0.26	0.37	0.71	1.21		
伝染性紅斑	3	4	2	5			
	0.01	0.02	0.01	0.02			
突発性発疹	106	108	125	113			
	0.41	0.42	0.48	0.43			
ヘルパンギーナ	18	27	64	131			
	0.07	0.11	0.25	0.50			

上段:報告数
下段:定点当たり

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省から7月8日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係不明ですが累計1768人(前回から25人増)死亡されていました。新たに亡くなられた25名のうち、64歳以下が12名、11歳以下が1名でした。また、重篤な副反応は7437人でした。5～11歳の副反応報告の100件のうち、23件が重篤と報告されています。このデータは厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

表1:6月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

文責:清水マリ子

	感染症	患者数
1	胃腸炎(アデノ10含む)	151
2	溶連菌	55
3	咽頭アデノウイルス	12
4	突発性発疹	9
5	伝染性膿痂疹(とびひ)	8
6	新型コロナウイルス	4
7	手足口病	1

あんず通信バックパ-は
クリニックホームページからご覧になれます。
<https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**を Web で確認出来るようになっていました。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～夏風邪について～

福生市周辺では先月に引き続き胃腸炎と夏風邪が流行しています。右の表は、東京都の小児科定点把握数です。これは東京都健康安全研究センターが毎週発行しているものです。

手足口病を起こすウイルスには複数種類あります。エンテロウイルスや、エコーウイルス、コクサッキーウイルスなどです。この内、コクサッキーウイルス A6 型は、罹患後1-2か月してから爪が割れたりはがれたりする症状がみられることがあります。

定点種別	対象疾患	2022年			
		27週	28週	29週	30週
小児科	RSウイルス感染症	278	379	399	440
		1.07	1.49	1.56	1.72
	咽頭結膜熱	75	72	36	30
		0.29	0.28	0.14	0.12
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	55	37	33
		0.19	0.22	0.14	0.13
	感染性胃腸炎	1,435	1,289	794	703
		5.54	5.05	3.10	2.75
	水痘	17	15	27	13
		0.07	0.06	0.11	0.05
	手足口病	567	641	795	1,216
		2.19	2.51	3.11	4.75
	伝染性紅斑	4	2	2	5
		0.02	0.01	0.01	0.02
突発性発疹	116	80	59	82	
	0.45	0.31	0.23	0.32	
ヘルパンギーナ	197	256	254	384	
	0.76	1.00	0.99	1.50	

～新型コロナウイルスについて～

東京都では7月中旬に第7波のピークとなりました。発生数を見ますと、8月8日以降実行再生産数は1を切って減少傾向となっています。とはいえ、現在流行しているオミクロン株 BA.5 は軽症化しており、発生数はあまり参考にならなくなっています。重要なのは重症化率や死亡率です。重症化率や入院率、病床使用率は第6波よりもさらに下がっています。データは厚生労働省のホームページからどなたでもご覧になれます。

8月2日に日本感染症学会、日本救急医学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本臨床救急医学会の4学会が連盟で次のような声明を出しました。『65歳未満で基礎疾患や妊娠が無ければ慌てて検査や受診をする必要はありません。自宅療養を続けられます。～中略～ほとんどが2～4日で軽くなります。オミクロン株に罹った時の自然経過は“かぜ”と大きな違いはありません。』また、次のような場合は受診するようにしています。

『水分が飲めない、ぐったりして動けない、呼吸が苦しい、呼吸が早い、乳幼児で顔色が悪い、乳幼児で機嫌が悪くあやしてもおさまらない』とあります。もし、緊急性が判断できない場合には、医療機関を受診されるか、#8000などで相談されると良いでしょう。

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省から8月5日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係不明ですが累計1796人死亡されました。また、重篤な副反応は7557人でした。5～11歳の副反応報告の110件のうち、28件が重篤と報告されています。

表1：7月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(7デノ8含む)	189
2	手足口病	64
3	溶連菌	28
4	ヘルパンギーナ	23
5	新型コロナウイルス	21
6	突発性発疹	6
7	咽頭アデノウイルス	5
8	RSウイルス	4

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

★ 夏休みのお知らせ ★

下記の期間は夏休みとなります。
ご不便をおかけしますが何卒宜しくお願い致します。
病児保育室あんず：8月13～21日
しみずクリニック：8月14～21日
★8月22日から通常どおりとなります

あんず通信バックパ-は
クリニックホームページからご覧になれます。
す。 <https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～

★空き状況を Web で確認出来るようになっております。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
★キャンセルをされる場合は、留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。



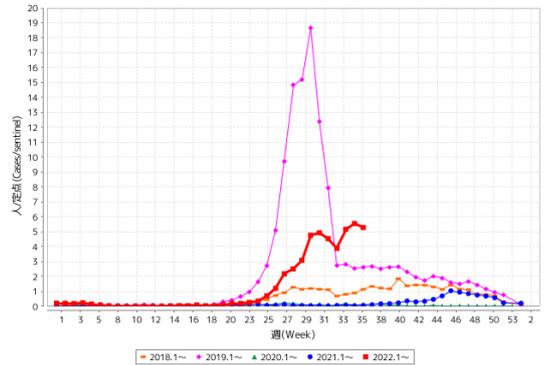


～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～夏風邪・RSウイルスについて～

福生市周辺では東京都のデータと同様に先月に引き続き手足口病が流行しています。右の表グラフは、東京都感染症情報センターが毎週発行しているものです。今年（赤のラインが2022）手足口病が多い印象でしたが、グラフを見ると2019年（ピンクのライン）のほうが多かったことがわかります。また、まだまだRSウイルスも流行しています。咳が出ている間はお休みしましょう。



～新型コロナウイルスについて～

9月14日WHOのテドロス事務局長は新型コロナウイルスによるパンデミック（世界的流行）について、1週間に報告された死者数が最も少なくなったことを根拠として「終わりが視野に入ってきた」と述べました。東京都では8月上旬に7波がピークになって以降、順調に減少してお盆休み後のリバウンドもありませんでした。重症者病床使用率も右肩下がりとなっています。今回の7波によって多くの小児も感染して自然免疫がついている状況であると推測されます。以前もお示しましたが、この2年間の厚労省のデータから新型コロナウイルスの死亡率と重症化率を読み解くと、従来の季節性インフルエンザよりも軽症であることがわかります。下の表は第74回アドバイザリーボード提出資料を基に名古屋大学名誉教授小島先生がまとめてくださった表です。ちなみにインフルエンザワクチンは任意接種です。

年齢	新型コロナ(2020/9-2022/7)				インフルエンザ(2017/9-2020/8)			
	死亡者数	100万あたりの年間死亡者数	重症者数	100万あたりの年間重症者数	死亡者数	100万あたりの年間死亡者数	重症者数	100万あたりの年間重症者数
0-9才	8	0.43	116	12.0	156	5.2	2152	71.1
10-19才	9	0.42	42	2.0	60	1.8	614	18.0

～新型コロナワクチンについて～

2022年8月8日厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会において、5-11歳の子供たちの新型コロナワクチン接種について9月上旬に「努力義務」を課すことが了承されました。「努力義務」とされていますが、厚労省は「努力義務については強制ではない」と発表しています。9月から接種が予定されている2価ワクチンは、従来株とオミクロン株BA.1の二種類が入っています。現在流行しているのはBA.5で、型が合っていません。今後また変異してさらに違う型が流行することが見込まれています。この2価ワクチンに関しては「効果が期待される」ということで推奨されていますが、ヒトでの使用は初めてであり安全性や有効性は不明です。

厚労省から9月2日に発表された新型コロナワクチン副反応報告では、因果関係不明ですが累計1835人死亡されていました。また、重篤な副反応は累計7720人でした。

文責：清水マリ子

表1：8月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	手足口病	98
2	胃腸炎(デブノ3含む)	76
3	ヘルパンギーナ	50
4	新型コロナウイルス	41
5	とびひ(伝染性膿痂疹)	11
6	RSウイルス	10
7	溶連菌	5
8	ヒトメタニューモウイルス	3
9	咽頭アデノウイルス	2
9	突発性発疹	2
11	水ぼうそう	1

あんず通信バックパ-はクリニックホームページからご覧になれます。 <https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～
★空き状況を Web で確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
★キャンセルをされる場合は、留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★
病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～流行中の感染症について～

9月中は8月に引き続き手足口病とヘルパンギーナ、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルスが流行しましたが、10月に入ってからは減少傾向です。寒くなってきた影響もあり最近ではウイルス性胃腸炎（お腹のかぜ）が増えてきました。嘔吐や下痢症状のある時は登園・登校をひかえましょう。

～新型コロナウイルスについて～

全国的に減少傾向です。とはいえ9月27日から全数把握が見直されており、検査陽性者の報告数が全てを表していません。オミクロン株になってから半年以上経過しましたが、オミクロン以前のアルファ型やデルタ型よりだいぶ軽症化しています。

～子どもの新型コロナワクチンについて～

5～11歳対応及び6ヶ月～4歳対応の新型コロナワクチン（コロナウイルス修飾ウリジンRNAワクチン）について特例承認された審査結果報告書をみますと、予防に対する有効性が期待でき、安全性は許容可能と記載されています。しかし、承認にかかる報告をさらにみますと海外の免疫原性、安全性試験の結果のみであり、新たな非臨床薬理試験と非臨床薬物動物試験は提出されていません。また、毒性試験に関する資料も提出されていません。その海外の第Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ相試験は現在も継続中で、長期間の安全性や有効性は不明です。このデータはPmda独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページからどなたでも閲覧できます。

～新型コロナワクチンの副反応について～

10月7日に厚労省から発表された副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計1883名と報告されました。下の表は2022年7月までのインフルエンザワクチンとの統計データの比較です。

	インフルエンザワクチン	新型コロナワクチン
接種期間	2016～2020年	2021～2022年
接種回数	2億6248万回	2億8273万回
副反応	1967人	3万4120人
重篤例	556人	7460人
死亡例	35人	1761人
心筋炎	1人	760人
ギラン・バレー症候群	33人	222人

表1：9月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(アデノ3含む)	87
2	手足口病	79
3	ヘルパンギーナ	26
4	RSウイルス	25
5	新型コロナウイルス	16
6	突発性発疹	6
6	とびひ(伝染性膿痂疹)	6
8	溶連菌	3
9	ヒトメタニューモウイルス	1

あんず通信バックパ-は
クリニックからご覧になれます。
す。 <https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～
★空き状況をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
★キャンセルをされる場合は、留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡をお願い致します。利用ご希

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★
病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～流行中の感染症について～

10月に入って感染性胃腸炎の季節になりました。胃腸炎のウイルスには代表的なノロ、ロタ、アデノなどがありますが、ロタウイルスについてはワクチンが普及したおかげでだいぶ減っています。これらのウイルス以外にも多くのウイルスがあり、ひと冬に何度も胃腸炎にかかることがあります。ワクチン以外でウイルス感染に対する予防策としては、普段からの自然免疫を高める生活が重要です。寒さに負けないよう、規則正しい生活、十分な睡眠、バランスの良い食生活を心がけましょう。乳児では嘔吐や下痢によって脱水症をおこすことがありますので、水分補給には十分気を付けましょう。

～新型コロナウイルスについて～

11月に入って感染者数がやや増加傾向となり8波に入って来たようです。現在流行している株はオミクロンBF.5ですが、世界的には感染者数は減少の方向です。しかし、今やワクチン接種率が世界最高となった日本において、世界で最高の感染者数となってしまいました（Our World in Data より）。

Outbreak Info/Our World in Dataからの患者発生データ（+直近約30日間の流行株） 20221108

	一日新規感染者数* (7日移動平均)	一週間の 陽性数増減	一週間の 相対的増減	各国の流行株		ゲノム解析 結果報告総数
				型	亜型	
日本	57,160	16,878	+42%	オミクロン	BF.5	439,884
韓国	42,800	7,704	+22%	オミクロン	BA5.2	61,071
アメリカ	40,250	3,764	+10%	オミクロン	BA.5.2.1	4,150,953
ドイツ	36,091	▲ 20,828	-37%	オミクロン	BA.5.2	796,327
台湾	28,204	▲ 6,075	-18%	60日以上報告なし		2,526
フランス	21,375	▲ 13,752	-39%	オミクロン	BQ.1.1*	524,437

日本の感染者数が最高になったとはいえ、第7波の重症化率と致死率は第5波や第6波よりもさらに低下して軽症化しています。令和4年9月に提出された大阪府新型コロナウイルス感染症対策協議会の資料によれば、第7波(BA4,5)では60歳未満の重症化率は0.01%、致死率は0.004%となっており、季節性インフルエンザの0.03%、0.01%を下回っています。このデータはどなたでもインターネットでご覧になれます。

～新型コロナワクチンの副反応について～

11月11日に厚労省から発表された副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計1908名（このうち5-11歳は2名）と報告されました。11月7日の厚労省の新型コロナワクチン健康被害健康被害救済制度の累積受理件数は5013件でした。

表1：10月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(アデノ5含む)	112
2	手足口病/ヘルパンギーナ	15
3	RSウイルス	5
3	とびひ(伝染性膿痂疹)	5
5	溶連菌	4
6	新型コロナウイルス	3
7	ヒトメタニューモウイルス	2
8	突発性発疹	1
8	水ぼうそう	1

あんず通信バックパ-は
クリニックへ-ジ-からご覧になれ
ます。 <https://ssn-clinic.net/>

文責：清水マリ子

～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～流行中の感染症について～

11月も引き続き感染性胃腸炎が流行しています。色々なウイルスによる感染性胃腸炎の中でも特にノロウイルスは伝染力が強く、しばしばご家族全員に広がります。手洗い・うがい・消毒などの感染予防対策をしても移ってしまうことがあります。大人でも嘔吐や下痢によって脱水症を起こすことがありますので、しっかりと水分補給しましょう。胃腸炎は早ければ3～4日で治りますが、長いと1週間以上かかることがあります。乳児では1か月以上のこともあります。嘔吐がある間は食事は控えましょう。また、下痢がおさまるまでは消化の良いものを食べ、その後普通のものを食べても大丈夫かどうか自宅で様子を見てから登園・登校しましょう。

～新型コロナウイルス・インフルエンザについて～

新型コロナウイルスの流行は市内でもだいぶ感染が広がりましたが、WHOのテドロス事務局長も来年には緊急事態宣言を終了することに期待を寄せています。12月に入ってからはインフルエンザ(A型)がちらほら出てきました。インフルエンザの出席停止期間は、幼児では発症後5日間(発病日を0として)かつ解熱後3日間です。小中学生では発症後5日間(発病日を0として)かつ解熱後2日間です。インフルエンザの伝染を拡大しないために出席停止期間が設けられています。新型コロナウイルスにしても、季節性インフルエンザにしても、抵抗力の落ちた高齢者や免疫抑制剤を使用している患者さん、重篤な基礎疾患、抵抗力の落ちた基礎疾患の患者さんは注意が必要です。

～新型コロナワクチンについて～

今や日本の一人当たりの接種回数が世界一になりましたが、感染者数は12月11日までのデータで6週間連続日本が世界最多となりました。日本小児科学会は生後6か月～4歳のコロナワクチン接種を推奨していますが、ヨーロッパの国々(イギリス、フランス、イタリア、スペイン、オランダ等々)では推奨していません。

～新型コロナワクチンの副反応について～

11月11日に厚労省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計1908名(このうち5～11歳は2名)、重篤副反応は25892名でした。5～11歳の重症副反応例は35名報告されています。これらの情報は厚労省のホームページからどなたでも閲覧することができます。

表1：11月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

文責：清水マリ子

	感染症	患者数
1	胃腸炎(ノロウイルス含む)	157
2	新型コロナウイルス	14
3	水ぼうそう	8
4	突発性発疹	4
5	ヘルパンギーナ	2
5	RSウイルス	2
5	ヒトメタニューモウイルス	2
8	咽頭アデノウイルス	1
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	1



～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになってきました。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

